

会議録(要旨)

会議名等	令和6年度当事者会 2月定例会		文責	障がい福祉室
日程	令和6年2月15日 午後1時30分～3時30分	場所	保健センター 研修室	

1. 吹田市小学校における人権講演会 千里新田小学校での講演について

令和6年2月8日に千里新田小学校の人権講演会において当事者会委員2名が「心のバリアフリー」をテーマに講演を実施。2部制とし、1～3年生は2時間目(9:40～10:25)、4～6年生は3時間目(10:45～11:30)に、約840人を対象として講演を行った。

今回講演を行った委員は2名とも電動車椅子を使用しており、講演場所である千里新田小学校の体育館は2階部分に位置していることから階段の昇降が困難であった。エレベーター設備もなく、電動車椅子の種類によっては重量があり人力での昇降が困難であることから、現場と別会場からのZOOM配信のハイブリッド形式で行った。A委員は別室からの映像をスクリーンに投影し、B委員は電動車椅子を学校の先生方に持ち上げて運んでもらい体育館で生徒たちと対面した。A委員とB委員の掛け合いに対し生徒たちのリアクションは良く、歓声や、委員を愛称で呼ぶ姿が見られるなど、会場の雰囲気は盛況であった。

今後も福祉教育等で当事者会に講演依頼があった際は、積極的な参加を検討したい。

2. 福祉総務室における出前講座「防災について」の受講を受けて振り返り

【意見】

- ・勉強になった。自分自身も周囲の人も、要援護者名簿に登録することや、個別避難計画を作成することは必要なことであると思った。
- ・障がい特性によっては緊急時に自身で対応できなかつたり、混乱したり、硬直したりする人が多いのだろうということを、出前講座を通じて改めて考えた。
- ・当事者の困りごとを周囲に分かってもらうことが大切だと感じた。
- ・個別避難計画の記載内容やフォーマットが不十分で分かりづらいと感じている。世帯を支援するための情報をどのように書いたらいいのかわからない。
- ・在宅避難時にどのような援助を受けられるのか、ライフラインの確保はどうしたらいいのか等、わからないことがまだまだある。
- ・個別避難計画は、在宅避難を選択した人たち、選択せざるを得ない人たちに対する配慮が感じられない。
- ・個別避難計画に対して、行政が目指していることも分かるが、今の内容では不十分だと感じている。
- ・災害がいつ、どこで起こるか分からない状況で、自分たちも防災ハンドブックを作成すること等で備えていくことが大切だと思った。
- ・災害時は地域のつながりが大切であると思う。災害時のコミュニケーション方法や、手話を知っている人が近所にいるかどうかということが自分の不安要素としてあるため、地域の人との交流を大事にしていきたい。自分自身もコミュニケーションボードを用意したり、周囲の人たちに知ってもらったりすることで災害時に備えたいと思う。
- ・無線防災について、放送後、携帯電話に無線の内容が送られてくるようになっている。少しずつではあるが、情報の伝達方法はよくなっていると感じている。
- ・災害時は支援者も被災者になるため、もし支援してくれる人がいてもどこまで対応してもらえるのが不安である。
- ・地域の人でも高齢化しているので、いろいろな世代の方と交流することが大切だと思った。
- ・当事者も積極的に避難訓練等に参加すべきだと思った。障がい者の避難方法について、自分たちから発信し、地域の人たちに知ってもらうことが大切である。防災訓練や自治会への参加など、地域交流を積極的にしていくことが大切。

3. 防災ハンドブック作成における今後のスケジュールについて

役員会で作成した防災ハンドブックのたたき台を委員に報告。内容、今後の作成スケジュールについて協議を行った。

【意見】

- ・重度障がい者の内容を追加したい。大まかに分けると条件に該当せず零れ落ちる人がいると思うため、どこまで細かく記載するか検討したい。
- ・在宅避難を選択した場合の支援の内容を追加してはどうか。車椅子利用者や、呼吸器をつけている障がい者は移動が困難であることを踏まえ、在宅避難時の「困りごと」「望むこと」を記載していったらどうか。
- ・意見を出し合い、何から載せるか優先順位を決めていく必要がある。
- ・聴覚障害の場合の困りごとについて、いろいろなコミュニケーション方法があるということを書きたい。パソコンや携帯電話を使って音声を変換する方法など、具体的な内容を載せていきたい。
- ・「自分の命を守ることが大切」といった内容を強調したい。
- ・食糧や日用品の備蓄が何日必要か等、災害時の生活のことを載せたい。障がいの有無に関わらず、災害時に大切なこと（基本情報）を載せたい。
- ・たたき台に「誘導するポイント」の欄があるが、それぞれの個性や特性があるため、一律に書くことは難しいのではないかな。
- ・様々な人の「場合」を書いていったらどうか（Aさん世帯の場合、Bさんの一人暮らしの場合、車いすユーザーであるCさんの場合など）。
- ・防災ハンドブックなので、ある程度一般的な内容に寄るところもあるのではないかな。
- ・防災ハンドブックと個別避難計画がつながるような内容はどうか。
- ・福祉避難所を利用したい場合、在宅避難の場合、などで分けて記載する。
- ・災害が起こった時の手順（避難方法、情報収集、避難生活）を書くのはどうか。
- ・災害時の連絡先（行政や支援機関）を書いてはどうか。
- ・災害規模、災害レベルの想定についてどうするか。
- ・「震度7の時は…」「震度4～5の時は…」「北摂地震の時は…」「能登地震の時は…」など、シチュエーションや災害規模ごとに記載するのはどうか。実際にあったエピソードなども掲載できるのではないかな。
- ・障がい特性もだが、地域の特性もそれぞれであるため、記載する内容の選定がむずかしい。どこにフォーカスをあてるか検討が必要である。
- ・「吹田市で災害が起きた場合、当事者は何を望むのか、どのような状況になるのか」といった内容で作成していったらどうか。
- ・当事者会で作る防災ハンドブックであるため、当事者にしかわからないことを掲載したい。
- ・一つのハンドブックに集約できるのか？障がい別や、場合に分けて作成したほうがよいのかもしれない。そもそもの構成においても検討が必要である。
- ・このハンドブックを支援者向けにするのか、当事者向けにするのかを決める必要がある。現在のたたき台の構成では、冒頭は支援者向けの内容で、中盤以降は当事者に向けた内容になっている。どちらに特化するか決めなければ方針がぶれると思う。

4. 令和6年度当事者会体制について

現在の当事者会役員会は4名で構成されている。来年度も現在の体制、人員で運営することに意見がある場合、または役員を希望する委員がいる場合は、役員会または運営事務局にメール、電話で連絡してもらふこととする。

5. 情報共有

■障がい福祉室から 令和5年度吹田市地域自立支援協議会全体会議の傍聴募集について

令和5年度吹田市地域自立支援協議会全体会議が令和 6 年 3 月 25 日(月)に開催される。本会議は傍聴することが可能で、申込が令和 6 年 2 月 16 日(金)から 3 月 18 日(月)の間で申し込みが可能となっている。詳細については吹田市ホームページで公開している。

以上